

第7章 子育てに関する意識

1 子育てに対する態度

子どもとの対立を避け、子どもの独立や将来のことを急がずに決めたいと考えている親(保護者)が増加している。

この章では、親(保護者)の子育てについての意識を見てみる。図7-1のとおり、「子どもは将来のことをあまり急いで決めず、できるだけいろいろなことを経験してほしい」「子どものために学校に積極的に協力したい」「子どもはできるだけ早く自分の将来の目標を決めて、それに向かって努力してほしい」「子どものためになるなら、いくら苦労してもかまわない」「子どもは親(保護者)から経済的に早く独立するべきだ」と考えている(「とてもそう思う」「まあそう思う」、以下同様)保護者の割合は、各年の調査に共通して、7割以上と高い。他方、「子どもの日常生活に立ち入らないようにしたい」「子どもが大人になっても、親(保護者)に経済力があれば、生活の援助をしてもよい」と考えている親(保護者)の割合が約3割と低い。

過去の調査との比較を見ると、「子どもはできるだけ早く自分の将来の目標を決めて、それに向かって努力してほしい」「子どもは親(保護者)から経済的に早く独立するべきだ」と考えている保護者の割合が低くなり、反対に「子どもは将来のことをあまり急いで決めず、できるだけいろいろなことを経験してほしい」「子どもが大人になっても、親(保護者)に経済力があれば、生活の援助をしてもよい」と考えている割合が高くなっている。子どもの自立を急がない傾向が見られた。また、「できれば、子どもともめ事を避けたい」「子どもの日常生活に立ち入らないようにしたい」「子どもは子ども、自分は自分の生きがいを追及したい」と考えている保護者の割合も高くなり、子どもとの距離を一定に保つ態度を示している。

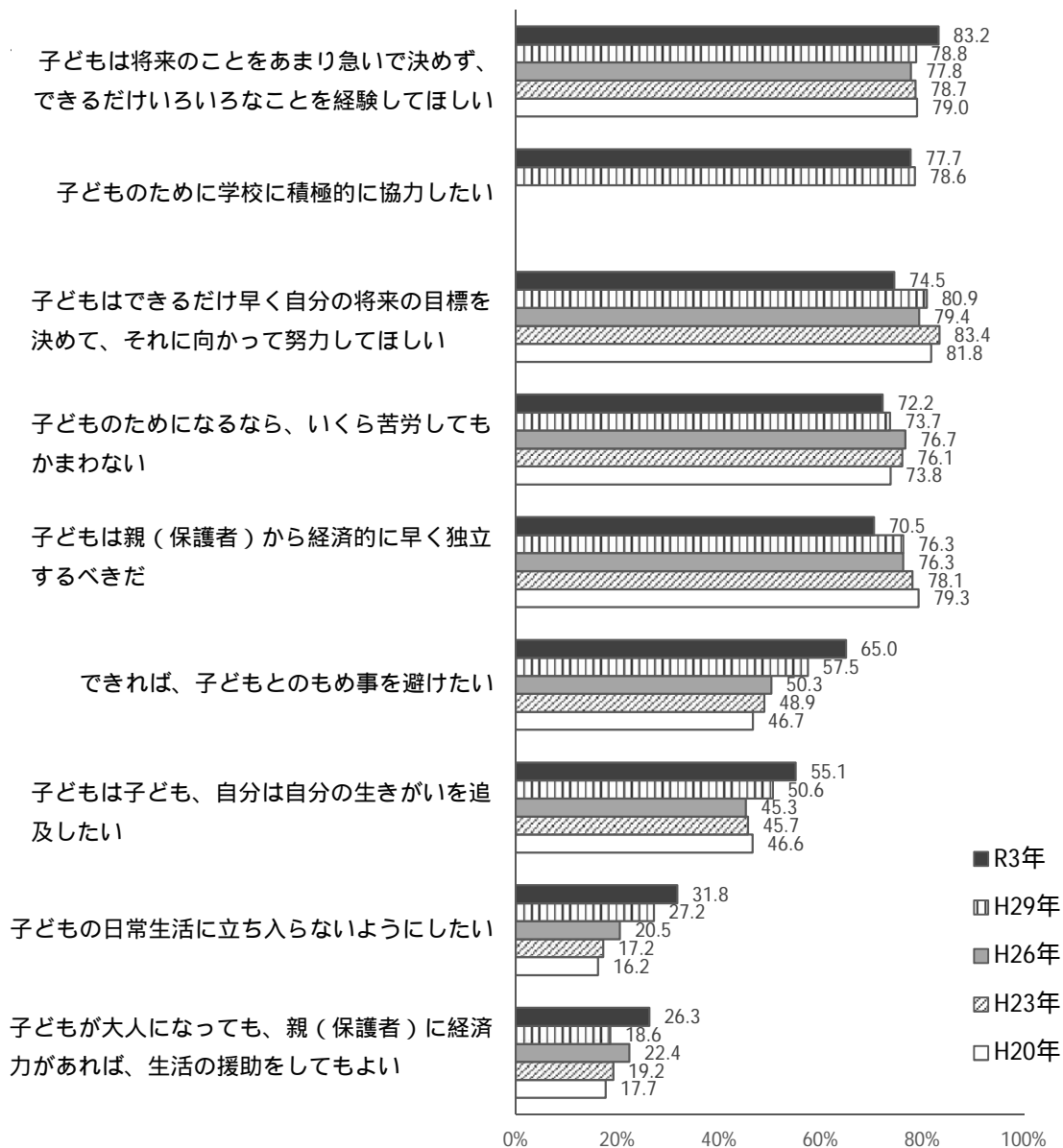


図 7-1 [保護者]子どもの教育や成長についての考え（「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合）

2) 育てたい子ども像

「我慢強い」「責任感がある」「明るい」の割合が低くなっている。

この調査では、親（保護者）に対し、子どもをどのように育てたいかについて、複数回答でたずねている。「思いやりがある」が5回の調査に共通して割合が8割を超え、最も高い。また、「自分の意見を言える」「礼儀正しい」も7割以上の割合を保っている。H26年とH29年調査に比べて割合を高めているのは、「自分の意見を言える」「創造的」である。逆に過去4回の調査よりも、割合を著しく減じているのは、「我慢強い」であり、「責任感がある」「明るい」も減少している（図7-2）。

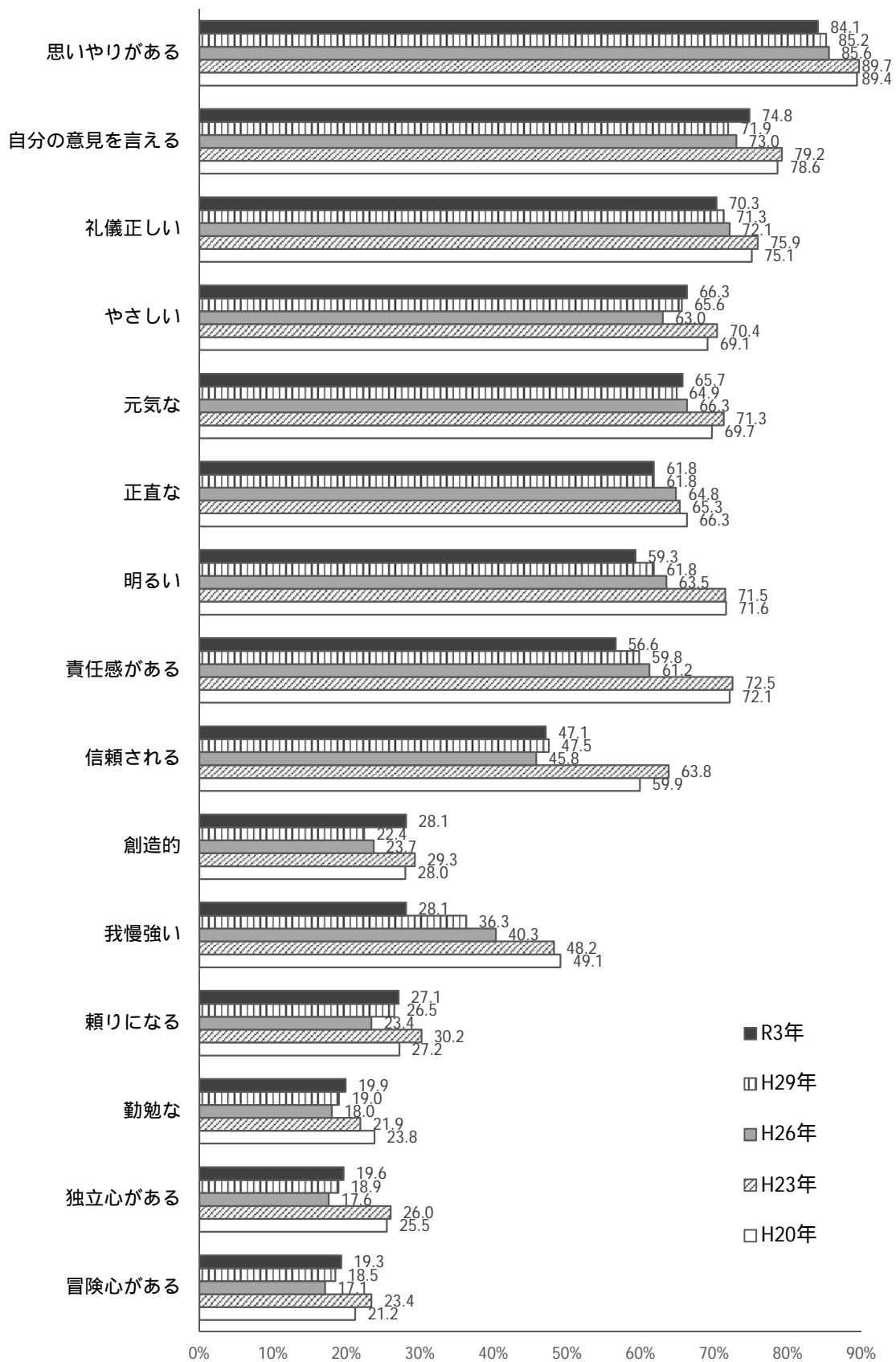


図 7-2 [保護者]育てたい子ども像・一部(複数回答)

図 7-2 に示している項目の回答結果を児童・生徒の男女別で見ると、男子のほうに多く望まれる資質は、「元気な」「責任感がある」「我慢強い」「頼りになる」「冒険心がある」などであり、特に「頼りになる」の割合が女子より 10 ポイントも高くなっている。他方、女子のほうに多く望まれる資質は、「思いやりがある」「礼儀正しい」「明るい」などである（図 7-3）。

また、児童・生徒の学年別で見ると、差が見られた項目は図 7-4 のとおり、学年が上がるにつれて、「冒険心がある」「創造的」「明るい」「元気な」の割合が低くなり、「信頼される」「責任感がある」が高くなっていく。

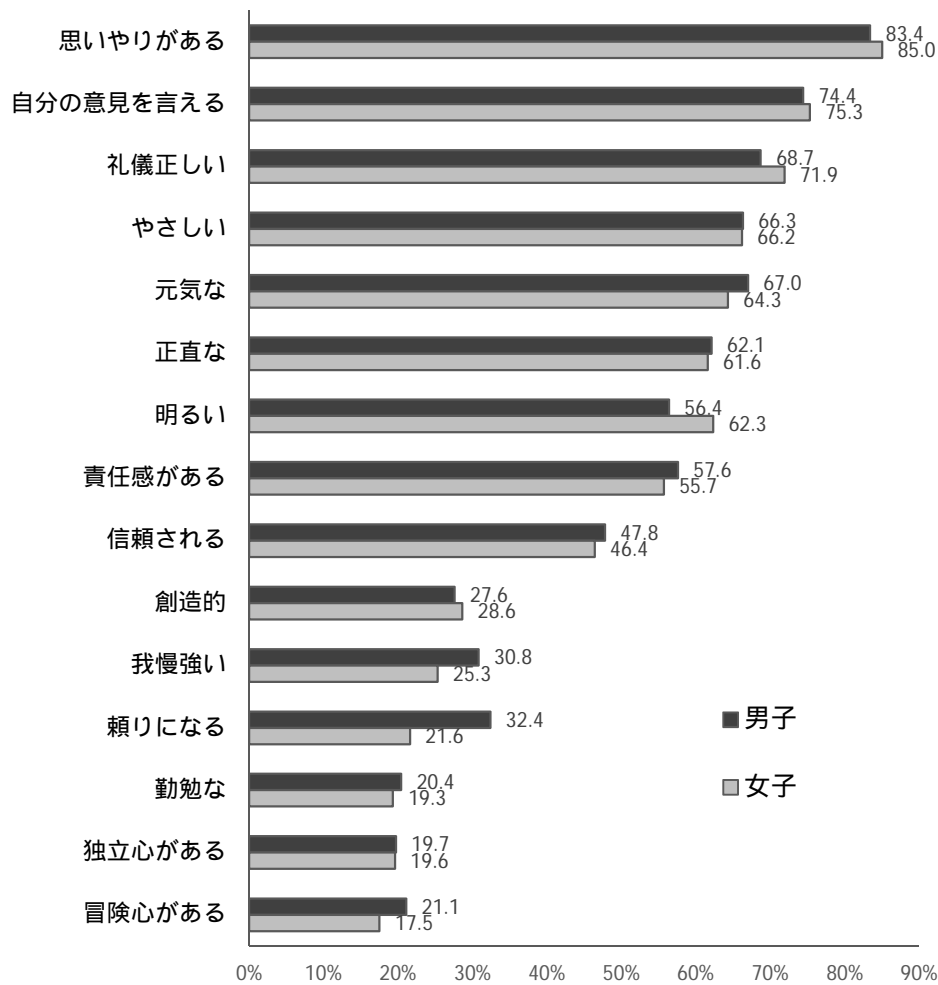


図 7-3 [保護者]子どもの男女別に見た育てたい子ども像・一部(複数回答、R3 年調査)

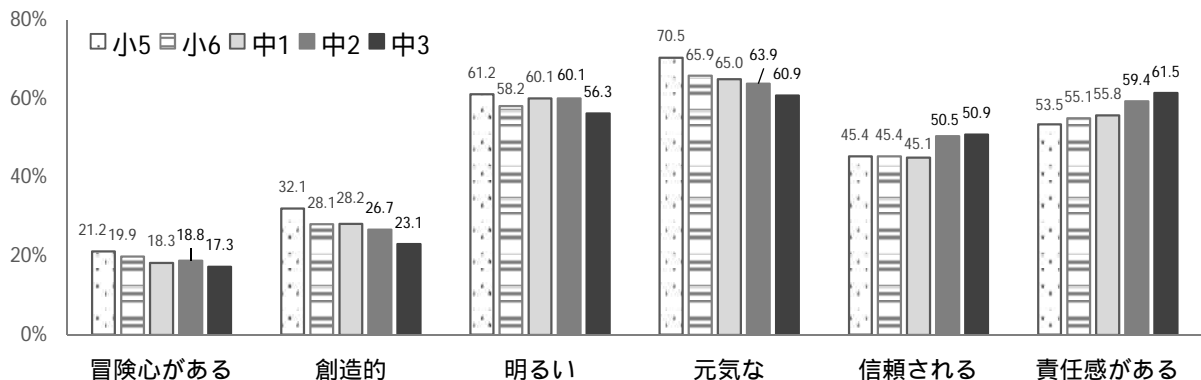


図 7-4 [保護者]子どもの学年別に見た育てたい子ども像・一部(複数回答、R3 年調査)

3 子どもの人生にとって重要なこと

「好きなことをする余裕をもつこと」が重視され、結婚や子どもを持つことへの関心が低下している。

子どもの人生にとって何が重要だと思うかを保護者にたずねた。図 7-5 のとおり、「周囲の人に感謝する気持ちを持つこと」が「大変重要」と考えている保護者の割合が 85.9%と、H29 年調査と共通して高い。次いで「苦楽を分かち合えるような親友を持つこと」で、5 回の調査とも 6 割を超えた。過去 4 回の調査に比べて、「好きなことをする余裕を持つこと」「世の中のいろいろな問題にチャレンジすること」が「大変重要」と回答した割合が高くなり、その反対に、「良い結婚相手を見つけ、幸せな家庭生活を送ること」「子どもを持ち、育てること」が「大変重要」と回答した割合が著しく減少している。そのほかに、「苦楽を分かち合えるような親友を持つこと」「自分にあった仕事で成功すること」「安定した仕事につくこと」の割合も低くなっている。

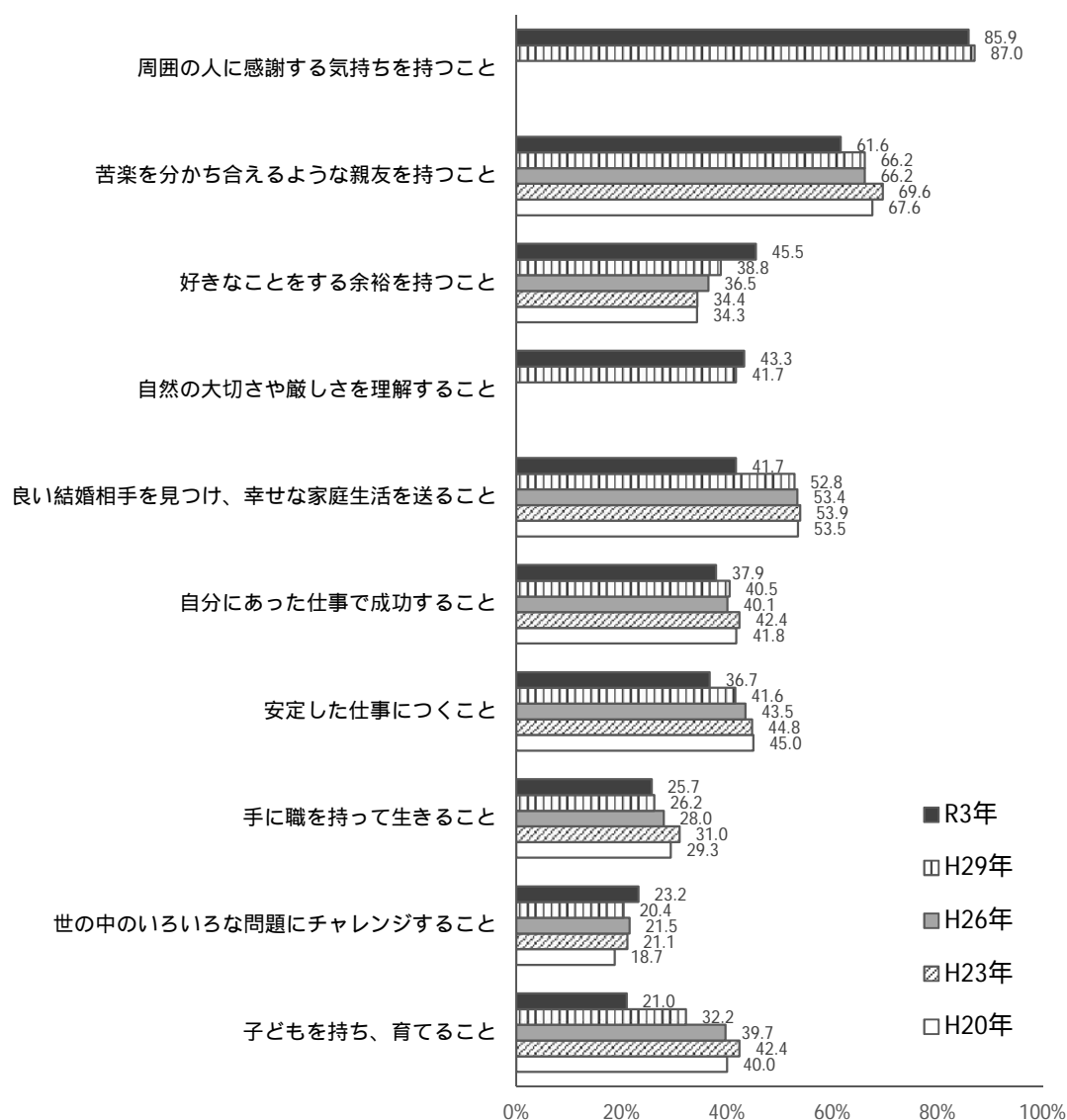


図 7-5 [保護者]子どもの人生にとって重要なこと(「大変重要」と回答した割合)

また、図 7-6 に示している 4 項目は、「大変重要」だけで割合が非常に低いため、「少し重要」という回答を合わせて見てみよう。「仲間のリーダーになること」と「大きな組織の中の高い地位につくこと」の割合がいずれも約 2 割と低く、子どもの人生にとって、リーダーになることや高い地位を得ることは重要な要素として考えている保護者が少ないことがわかる。「お金持ちになること」「良い学校に入ること」に対し、5 割強の保護者が肯定的な回答をしている。H29 年調査に比べて、4 項目ともその肯定率が低下している。

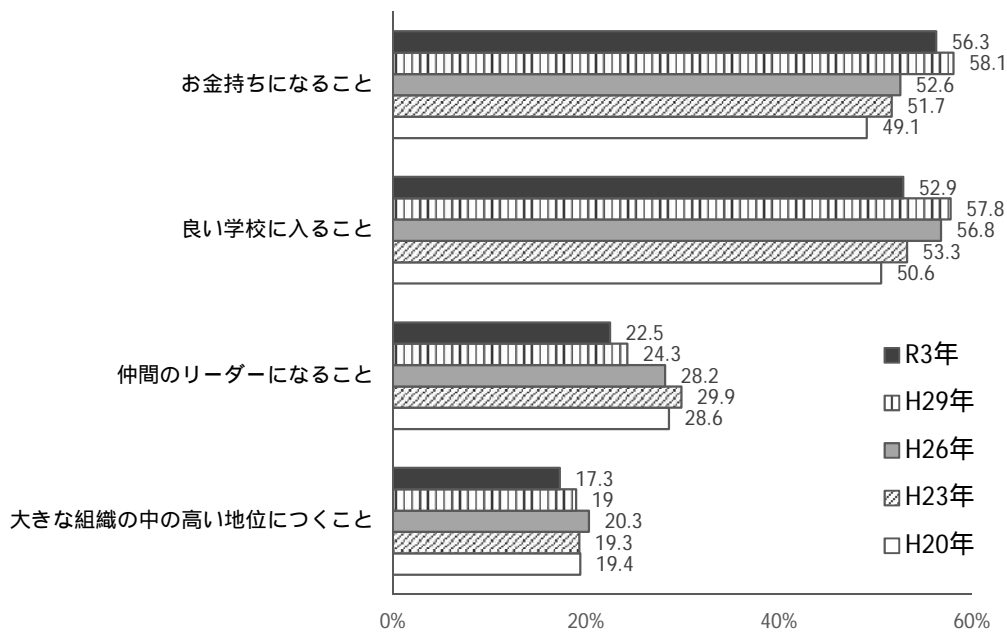


図 7-6 [保護者]子どもの人生にとって重要なこと(「大変重要」「少し重要」と回答した割合)

4 子育ての悩みについての相談相手

「配偶者・パートナー」が増え、「友人」「学校の先生」が減少している。

子育ての悩みについての相談相手を見ると、各年度とも「配偶者・パートナー」が最も多く、次いで「友人」や「親やきょうだい」である。「学校の先生」に相談する割合が1割強にとどまっており、「カウンセラー、相談員」や「近所の人」の割合が極めて低い。今回の調査で追加した「行政(区役所、児童相談所等)」の割合も1.0%に過ぎなかった。過去4回の調査に比べて「配偶者・パートナー」の割合がやや高くなり、「友人」「学校の先生」が低くなっている(図7-7)。

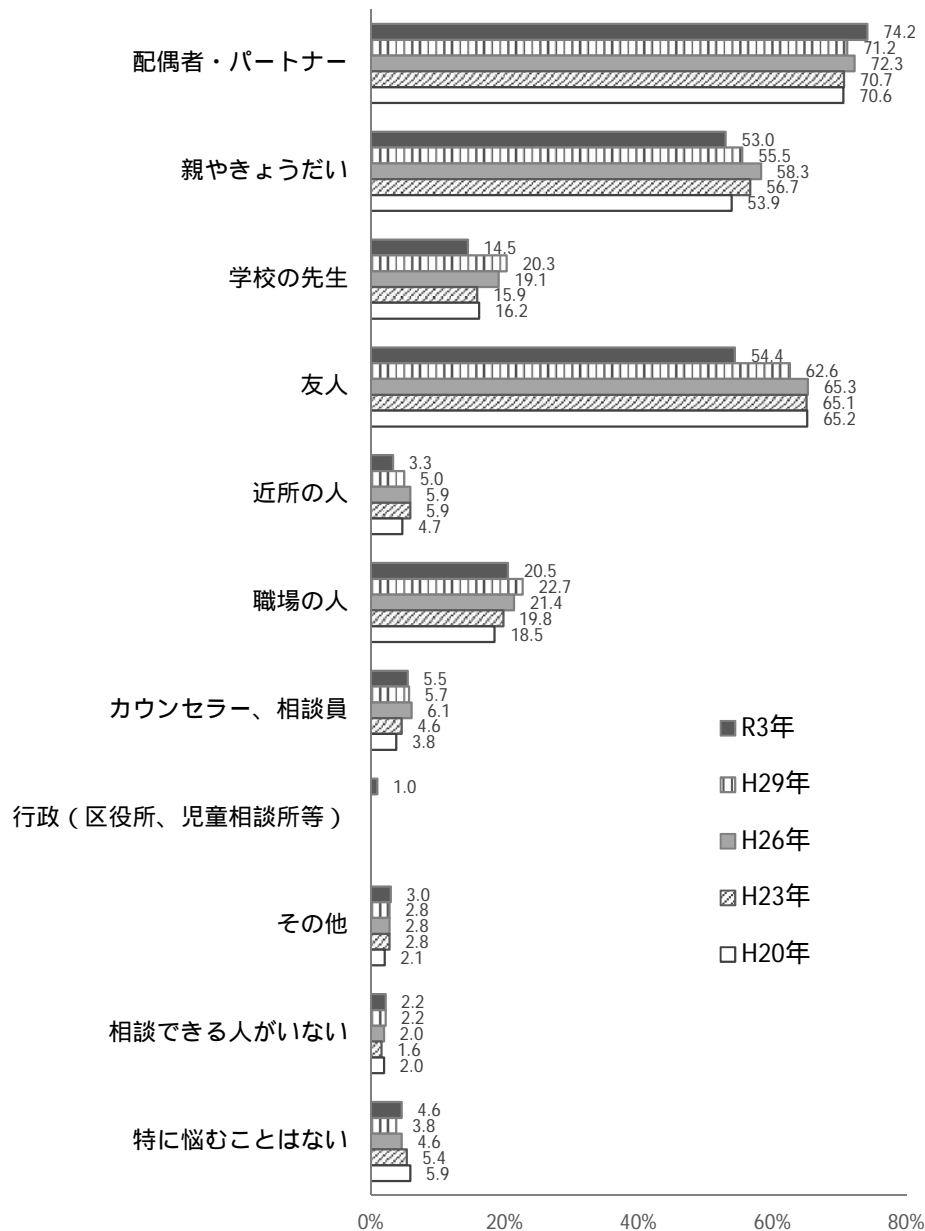


図 7-7 [保護者]子育てについて悩んだとき、誰と相談していますか(複数回答)

5 マスコミの情報と万引きについての考え方

メディアからの情報の子どもへの影響について、「社会勉強の一つとして有益だ」と考えている保護者の割合は7割弱で、過去4回の調査に比べて10ポイント以上も高くなっている。

本調査では、様々なメディアの情報が及ぼす子どもへの影響について、4項目を例示し、「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の4段階で保護者にたずねた。「社会勉強の一つとして有益だ」と考えている（「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した。以下同様）保護者の割合が68.2%と最も高くなっており、しかも過去4回の調査に比べ

て10ポイント以上も増加している。また、「世の中の現実の一つとして慣れる必要があり、特に問題にするほどのことではない」と考えている保護者の割合が59.0%と、H26年、H29年の調査よりも高くなっている。これに対し、「性や暴力について、ゆがんだ見方をするようになると思う」が45.0%と、過去4回の調査に比べて、最も低くなっている。「子どもの勉強の妨げになっている」と考えている割合が57.9%となっている。このように、メディア情報に対し、肯定的・容認的意見が増加する傾向にあることがわかる(図7-8)。

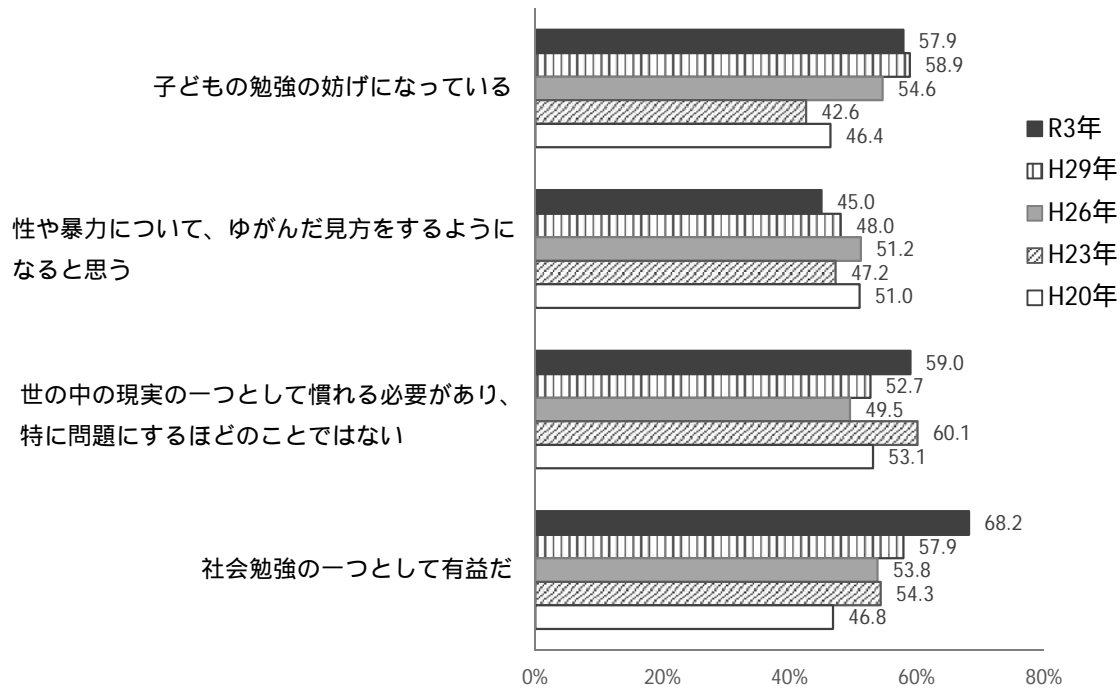


図7-8 [保護者]メディアの情報が及ぼす子どもへの影響について
(「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した者の割合)

また、子どもの属性別に比較してみると、「子どもの勉強の妨げになっている」と考えている保護者の割合は子どもが中学生になると高くなり、「性や暴力について、ゆがんだ見方をするようになると思う」は子どもが中2や中3になると、低くなっている。男女別では、2項目とも男子の割合が女子よりやや高くなっている(図7-9、図7-10)。

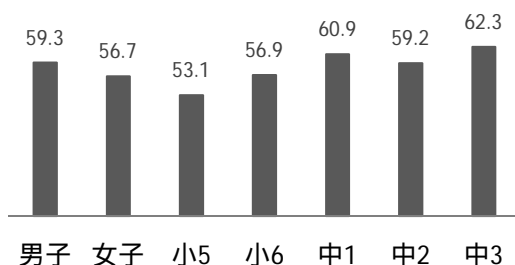


図7-9 [保護者]子どもの男女別・学年別/メディアからの情報は「子どもの勉強の妨げになっている」(「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した者の割合)

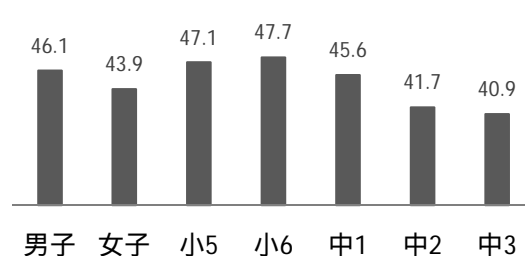


図7-10 [保護者]子どもの男女別・学年別/メディアからの情報は「性や暴力について、ゆがんだ見方をするようになると思う」(「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した者の割合)

次に、青少年の万引きに関する考え方を保護者と児童・生徒の両方から見てみる。「犯罪であり、絶対にやってはいけないこと」と回答した割合が、保護者の95.0%に対し、児童・生徒は86.5%と低くなっている。「やってはいけないことだが、大した問題とは思わない」と回答した割合が、保護者の2.0%に対し、児童・生徒は6.7%と高くなっている。「万引き」について、保護者と子どもの間ではすこし意識にずれがあることが見て取れる。過去3回の調査に比べて保護者と児童・生徒の回答に大きな変化が見られなかった（図7-11、図7-12）。

児童・生徒の性別と学年別でみると、「犯罪であり、絶対にやってはいけないこと」と回答した割合は、女子のほうが男子よりやや高く、また学年進行とともに、やや低くなっている。「やってはいけないことだが、大した問題とは思わない」と回答した割合は、男子のほうがやや高く、また学年進行とともに、高くなっている（図7-13、図7-14）。

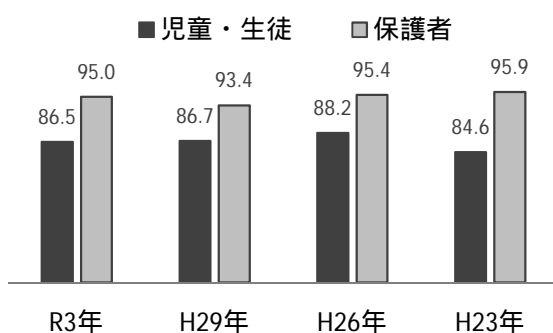


図 7-11 青少年の万引きについて：「犯罪であり、絶対にやってはいけないこと」

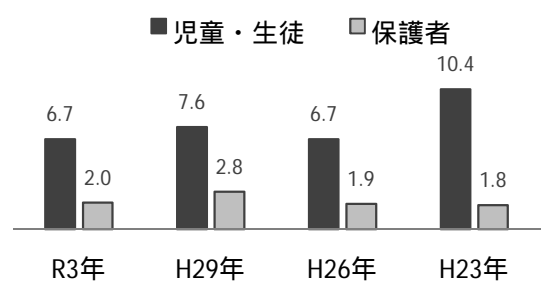


図 7-12 青少年の万引きについて：「やってはいけないことだが、大した問題とは思わない」

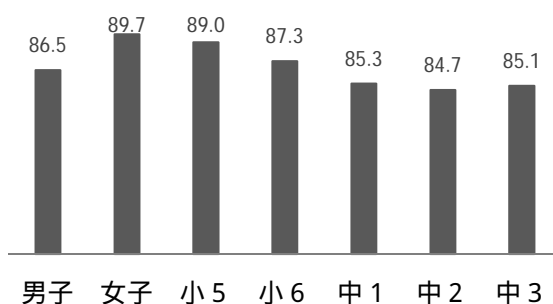


図 7-13 [児童・生徒]男女別・学年別/青少年の万引きについて：「犯罪であり、絶対にやってはいけないこと」

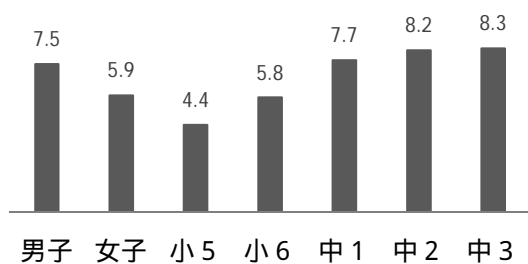


図 7-14 [児童・生徒]男女別・学年別/青少年の万引きについて：「やってはいけないことだが、大した問題とは思わない」